

桑名ノ人協

平成9年3月20日
第 5 号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361

ご挨拶

桑名市文化協会会長 佐藤 勤三



まさに、「アマチュアイズムこそ文化の根っ子でござる」である。その根っ子は巾ひろく深い。お子さんから年輩者まで、美しい花を咲かせ、緑を茂らせている。桑名の文化エネルギーは渦巻いている。

文芸展での投句コンクール・茶会とともに行われた聞香席・社会文化部門が企画したインターネット体験など、新しい企画もたいへん好評でした。また、部門をひとつにまとめてジョイント演奏を試みた音楽部門や発足してはじめての舞台発表とはいうものの、立ち見の観客が出るほどのすばらしい集客力を見せた芸能Ⅲ部門など、今回も充実した催しとなりました。

平成九年度は、桑名市も市制六十周年を迎えます。「今回以上にすばらしい文化祭にしなければ」とそんな会員の方々の声がとても力強く感じられました。

本年度は、ピアノ伴奏符をバンドスコア編曲し、合唱と吹奏楽を組み合わせた新たな形に挑戦しました。また開催日を、「開戦の日」にあたる十二月八日に設定し、成徳中学校を会場に、コンサートを行いました。コンサートに先立ち、成徳中学校二年生の四名の皆さん意見発表がありました。さらに「戦争を考える」パネル展示も行いました。

成徳中学校の生徒・近隣の小学校の児童・その保護者の参加があり、大いに戦争の悲惨さ・平和の尊さについて考える機会となりました。

三、協賛事業

第二回目を迎えた、みえ県民文化祭。今年度は、平成八年九月八日、「マンドリンとギターの仲間大集合 in 桑名」を開催、賛助出演するなど協賛しました。

昨年度に引き続き、「ぞうれつしゃがやってきたコンサート」を開催、その公演に共催団体として参加しました。

二、共催事業

星年度に引き続き、「ぞうれつしゃがやってきたコンサート」を開催、その公演に共催団体として参加しました。

【第五回総会予告】

日 時 平成九年五月十八日(日) 午前十時から
場 所 桑名市民会館 大会議室

☆ 各部門ごとに代議員の選出をしていただきます。
詳しくは各部長から連絡します。

戦後五十年、日本経済の目覚ましい発展に世界は瞠目した。が、今は「月いずこ鐘は沈みて海の底」——芭蕉——ほどではないが、経済の低迷は長い。日本の倫理の核心部は大きく揺らぎ、薄らいでいる。私は第二の敗戦を迎えたような気持ちにたびたび襲われた。

が、本年の文化祭を終えて、力強い自信と勇気を与えたよう思ふ。私は若い頃、もっぱら歐米の最高の文化を日本に紹介する仕事に専念したことがある。それはそれでよいとして故郷に帰り桑名の文化協会の仕事に係わり、自分が覚めた想いをしている。当初、六百余名の会員が、今は三千六百余名を越え、さらに増加する勢いである。誠に幅広く、さまざまの文化が展開しており、そのほとんどがアマチュアによるものである。

事業の報告

一、受託事業

第五回桑名市民芸術文化祭は平

成八年十一月二日から二十四日までの約一ヶ月にわたり開催されました。

部門だより(1)

新しい試み

文学部門 神保 喜一

第5回市民芸術文化祭作品展には、多数のご来場ご高覧をいただきました。ありがとうございました。

新しい試みとして会場にての投

句、投詠に少なからず不安を抱いておりましたが、多数のご参加をいただき深くお礼申し上げます。

平成八年の文化祭は実り多かったです。これを機に、これからも会員以外の、市内はもとより市外の方々をも含め、楽しむ文化祭を計画して行きたいと思っています。

より一層の皆様のご協力をお願ひ致します。

投句、投詠入選者氏名

(重複・敬称略)

☆俳句 葛山たけし選

山本 利夫

伊藤 美代子

水谷 利二

榎原 多佳子

諏訪 寿子

鈴木 源之助

☆川柳 木原広志選

内山千代子

☆短歌 大平修身選

松井貴美子
佐藤 清江
黒田美代子
上原巳喜子

西羽加代子
松井貴美子
六華苑
岡 忻也

文化祭に思う

美術部門 後藤 光男

平成八年度文化祭の文協美術部門展は、会場の規模に合わせ絵画・書道・工芸など三〇余点が出品された。

三重県で開催された'94国民文化祭を契機に、文化の日を中心に地域主体で催される文化祭は、毎年に多彩になってきた。

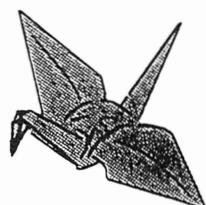
数年来、訪ねる隣接町の文化祭。例えば昨年H町が土、日曜に併催の文化と産業のまつりは、地域の特色をいかし、うねりのような人

出は縁日の賑わい。美術展会場で出会った知人は「名古屋からの友達です」と誇らしげに数人の客を案内していた。T町の美術文化祭は、文化協会を軸に未加入のグループや個人、小中学生も参加。出品数は膨大で金、土、日曜を一期に部門別に三期三週の開催にわたつての開催である。

文化祭は、県・市民展や既成の美術団体展のような少人数を文化人を輩出する煙突文化と異なり、素朴な市町民総参加の文化のまつりである。運営次第で参加の裾野を広げ、地域ぐるみの文化のまつりになるのでは?

第5回桑名市民芸術文化祭	
コミュニケーションセンター	
11月2日(土)	美術展
11時～17時	10時～17時
11月3日(日)	お絵かき教室
11時～17時	10時～16時
11月10日(日)	演劇の祭典
13時～16時	10時～17時
11月23日(土)	ステップDEムーブメント
13時～18時	13時～18時
主催 桑名市教育委員会 桑名市文化協会	

第5回桑名市民芸術文化祭	
六華苑	
11月3日(日)	華道展
10時～17時	10時～17時
11月3日(日)	茶会
10時～16時	10時～16時
11月22日(土)	影型画創作展
10時～16時	10時～16時
11月24日(月)	趣味教養展
10時～16時	10時～16時
11月23日(土)	百人一首かる講習会
10時～17時	10時～17時
11月23日(土)	将棋大会
10時～18時	10時～18時
11月24日(日)	百人一首かる講習会
10時～17時	10時～17時
11月24日(日)	邦楽演奏会
10時～15時	10時～15時
11月24日(日)	市民図書大會
10時～17時	10時～17時
主催 桑名市教育委員会 桑名市文化協会	



部門だより(2)

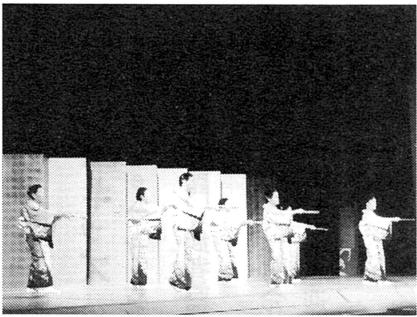
第5回桑名市民芸術文化祭に参加して

芸能I部門 荒木 敏文

私たちの芸能I部門は、謡曲・舞踊・民謡・大正琴・長唄・小唄・箏曲・尺八・現代三味線等で構成されています。

この第5回桑名市民芸術文化祭にはすべての部門が出演し、延べ430名の方々の参加を得ました。

また、今回の文化祭当日の天気は良く、市民会館のフロアでは菊花展が開催され芸術文化祭にふさわしい日がありました。私は第1回から出演しておりますので、この文化祭を通じて各部門の先生方とお会いするのが楽しみとなりました。各先生方にはこの文化祭を開催するにあたり裏方と



して一生懸命ご活躍され、本当に有り難うございました。

私はこの文化祭が市民の皆様方に定着し、たくさんの方々にご来場を賜りましたこと非常に感激しております。

今後、私たち芸能I部門はこの文化祭が続く限りさらに芸道に励み、桑名に素晴らしい古典芸能があることを知らしめて行きたいと思います。

詩吟を楽しむ

芸能II部門 足立 岳精

詩吟は特に楽器を必要とせず、手軽に楽しむ事ができます。自然に触れ歴史に学び、体全体で声を出す事は実に気持ちのよいものですが、自然破壊・廃棄物処理・海洋・大気の汚染等環境に関しては今や世界的課題であります。

詩歌の吟詠により、身近に四季の変化に触れ、自然の美しさ、厳しさ、恵みを感じ取り自ずと情操が豊かになってまいります。また、日本・中国の史実と先人が残された詩歌から学ぶことは多く、我々を内省へ導びいてくれます。昨今の生涯教育・青少年善導等々聞かれますが、質実剛健の気風や教訓を求めている何かを示してくれてい

ると感じます。車が増え、仕事や日常生活の中でも大きな呼吸をする事が少なくなりましたが、詩吟は姿勢を正し大きな声で発声するので健康上とてもよいものです。

伝統文化を誇りに各流派・各会の皆様と共に郷土の文化発展に精進する所存であります。

インターネット体験

社会文化部門 塚本順夫

昨年の市民芸術文化祭で、社会全体で情報化が急速に進展していく今日、マルチメディアがもたらす変化や、姿を探つていただくことを願い、「インターネット体験コーナー」を企画致しました。当日は百余名という予想以上の参加をいただきました。これも、今日のインターネットブームの現れではないかと思います。

第1部の『マルチメディア事始め』と題した講演では、愛知県立大学助教授の小栗宏次先生から、マイクロエレクトロニクス、デジタルテクノロジーの発展によってもたらされた情報化社会で、人は何をしなければならないか、それは時代の変化を読み取り、單に知識として受けとめるのではなく、率先してパソコンやインターネットなどの情報ネットワークの中に

身を置き、自分で体験して情報ネットワーク社会の到来を実感して欲しいと、パソコンを駆使して語つていただきました。

また、第2部では日本IBMの協力により、「商品紹介」、「会社案内」といったホームページやアメリカのホワイトハウスにアクセスし、文、写真、動画、音声など情報が、時間と場所を超えて飛び交うコンピュータ・ネットワーク社会を体験していただきました。

さて、いま情報化進展の大きなうねりの中で、桑名にも昨年プロバイダーが設立され、ますます身近になってきたインターネットですが、通信インフラの整備等解決すべき課題も多々あります。特に、公共の場で通信インフラが完備されれば、講演会や会合も一味違つたものになるでしょう。

ハードとソフトそしてプラットホームの調和が、私達に情報化社会の豊かさを提供してくれるからです。



部門だより(3)

モダンバレエキッズ

「One Step de Mu-ブメント」

芸能Ⅲ部門 武者眞理子

ました。これからも、色々なジャンルのグループの方ともジョインして行きたいと思っております。

11月23日、桑名市民芸術文化祭芸能Ⅲ部門ファイナーレの時を迎へ、会場いっぱいの拍手の中で、やれぱできるじゃないか!という思いで、いっぱいになりました。今年度は、芸能Ⅲ部門として独立したステージを作らせていただきありがとうございました。伊藤先生、南條先生と共に、洋舞らしく、個性的なステージにしようと私たちスタッフもそして子供から大人まで80名あまりのメンバーも、毎日レッスンに、準備とはげんでまいりました。ジャズダンス・ムードダンス・モダンバレエと、同じ洋舞とは申しましても、曲も趣も異なったグループです。でも音楽に乗り、せいいっぱい美しく楽しのものです。手で足でリズムを取り舞い踊るということは『天の岩戸』の昔よりつづいてきた、自らの心を自らだけで表現するすばらしい芸術だと、文化協会会長佐藤様も、当日激励して下さい



平成八年度の市民芸術文化祭音楽部門は、昨年の十一月二十四日桑名市民会館にて「音楽のフルコンサート」と題して開催されました。

バンド、コーラス、弦楽、器楽、吹奏楽など異なるジャンル、演奏形態が一堂に会し、バラエティーに富んだステージが展開されました。演奏会の最後には、「グランド・フィナーレ」として出演者全員により、吹奏楽をバックに「翼をください」の大合唱がおこなわれ、舞台いっぱいの出演者の歌声が響きわたるなか、「音楽のフルコース」の幕が閉じられました。

私たちの生活の中には「音」が満ちあふれています。その中で本当に音楽的なものはどれほどあることでしょう。生き生きとした「翼をください」の歌声を聞きながら、ふと、そんなことを考えてしまいました。

♪この大空に翼を広げ
飛んで行きたいよ
悲しみのない自由な空へ
翼はためかせ
行きたい

舞台いっぱい歌声ひびく

音楽部門 藤永博幸



部門だより(4)

熱のこもつた

演劇公演続く

演劇部門 若葉正則

今年も、高校演劇・児童劇・自主劇団などが、さまざまな形式で公演が続いた。

第五回、桑名市民芸術祭、演劇の祭典が、去る'96年11月10日に、コミュニティプラザで行われ、桑名高校演劇部が「祭よ、今宵だけは哀しげに—銀河鉄道と夜」、桑名西高校演劇部は、「仮面の王様」他四本の寸劇を発表した。なかで

も、この日、旧城南演劇クラブの名前を変えて、子ども演劇くわなという名で出演された、児童劇は、グリム童話「ハーメルンの笛ふきによせて」を、脚色構成演出を喜多と志先生にして頂いた公演は、桑名市立「清風園」の老人の方々、小池、三浦音楽工房の贊助出演で、熱のこもった公演となつた。劇団すがおは三十五周年記念第五十四回公演が、'96年11月30日(土)12月1日二回公演「ONとOFFのセレナーデ」が上演された。

この後、'97年3月15日コミュニティプラザで、午後六時半から、主

催で、韓国、劇団馬山日本公演、喜劇「襄裨將伝」を上演します。前売券、一般千円、中高生五百円

あさけプラザで、第16回三重県北勢地区高等学校合同発表会があります。桑員地区から、桑名西、桑名、員弁の各高校演劇部、四日市から八校が出演します。

茶華道部門の報告と今後の予定

茶華道部門 佐川五百甫

第五回桑名市民芸術文化祭の華道展は六華苑の番蔵棟と会議室で開催され、番蔵棟は部屋の仕切りの壁があり、各流派の花席が別れるという難はありましたが、落ち着いた楽しめる会場だったと思います。平成八年度はお茶会と聞香席と同時開催で大勢の入場者もあり盛会でした。

平成九年度六華苑月釜と華道展

(各月共第三日曜日)

4月20日	松風流煎茶
5月18日	遠州流
7月20日	表千家
9月21日	松尾流
10月19日	裏千家
平成十年 3月15日	「小原流・池坊」 「未生流・サークル」

子ども文化祭に参加して

子ども文化部門 高草環

一九九六年7月13日(土)・14日(日)の両日、桑名市コミュニティプラザにて、桑名市教育委員会の主催で、子ども文化祭が開催されました。

子ども文化部門は、第1日目に桑名「子どもの本」勉強会のメンバーで「手作り紙芝居と読みきかせ」桑名子ども劇場が、子どもの権利条約キャンペーンのコンサート「地球を救うアトラス号」を催しました。

第2日目は、コアラ文庫・桑名「子どもの本」勉強会が主となり、「林洋子のひとり語り」—宮沢賢治の世界—を行いました。その他に「ブックトーク」もあり、たくさんの方々の入場者をみました。子ども文化祭は成功裡に終り、次回もまた、参加をしたいと考えています。



部門だより(5)

六華苑での市民文化祭

趣味教養部門 西村 邦彦

県指定文化財である六華苑での趣味教養部門市民文化祭の開催は、今年で2回目でした。

今回はバラ展と一緒に行うとい

う趣向で11月21・22日をメインとしました。(愛石・菊花展は、從

来どおり市民会館で11月2~4日)。

番蔵棟や一の間・二の間、会議室やフロアなど会場の空間を使って、作品展を主に実演、競技会など多様となりました。特に伊勢型紙による年賀状づくりは盛況でした。

今年から子ども文化部門が文化協会にできて、子ども劇場・読み



聞かせの会が別れたのですが、13
団体が一堂に会して展開すること
ができました。

市民文化祭のテーマは何かは難
しいのですが、

◇参加団体のよさが率直にわかる
こと

◇団体・個人の交流親睦を深め、
お互いに内容を知りあうこと

◇文化財との調和を求めるここと

◇全市民の皆さんに参加(観賞を
含め)して、もらえるような催

しにと考えて挑んでみましたが、
評価はどうだったでしょうか。

最後に、会場までの交通機関で
すが、市内バスで六華苑がルート

にあるといいですね。

また、他部門との交流開催もし
たいと思っていますので宜しくお
願いします。

広報委員からのご挨拶

平成8年8月第1回広報委員会が開催され、下記の通り委員が決まりました。平成9年1月第2回委員会を開催、第5号桑名文協発行について検討を行い、第4号を基本線として作成することになりました。従って内容は文協会長御挨拶をお願いし、各部門よりの活動状況を掲載しました。特に平成8年度の文化祭は部門によっては大多数の参加者があり皆さんの文協への御理解と御協力を感謝すると共に、今後の発展のためお互いに協力しましょう。

● 広報委員長

大原 一郎 (趣味教養部門 — 桑名かるた若菜会)

● 委員

上原 巳喜子	(文学部門 — 金雀枝短歌社)
後藤 光男	(美術部門 — ぐるうぶ雑創)
荒木 敏文	(芸能I部門 — 桑名邦楽協会)
松田 正美	(芸能II部門 — 桑名市吟剣詩舞連盟)
森岡 由美子	(芸能III部門 — 武者真理子モダンバレエキッズ)
藤永博幸	(音楽部門 — 桑名北高校吹奏楽部)
若葉 正則	(演劇部門 — 劇団すがお)
大河内 浩	(社会文化部門 — 石取祭車研究會)
小川 章子	(茶華道部門 — 華道草月流)
長尾 寿美子	(子ども文化部門 — コアラ文庫)

